

手話言語をブルーライトで輝かせよう！ 市民・地域・社会をひとつにチャレンジプロジェクト2026

【趣旨】

毎年9月23日に行われる「手話言語の国際デー」が2017年12月19日に国連総会で決議されてから、今年で9年目になります。決議文では「手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国すべてにおいて手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進する」とされ、毎年テーマが決められています。2026年は「ろう者人権宣言（原題：Declaring Deaf People's Human Rights）」です。



INTERNATIONAL DAY
OF SIGN LANGUAGES

手話言語の国際デー
ロゴマーク

世界ろう連盟（以下、「WFD」という）（WFD：World Federation of the Deaf）は、2018年から9月23日の手話言語に関するイベントを開催してきました。このイベントに加え、2022年からは国連や世界ろう連盟のロゴの色でもあり、「世界平和」を表す青色（原則として#007EC4）でのライトアップを世界各地に呼びかけました。このブルーライトアップやイベントは、市民・地域・社会がSNSでつながり、各国の手話言語を尊重しあい、世界中のきこえない・きこえにくい人ときこえる人がひとつになる瞬間です。

2025年は、47都道府県448市区町村862か所でブルーライトアップや関連イベントを実施しました。全日本ろうあ連盟（以下、「連盟」という）では、今年も「手話言語をブルーライトで輝かせよう」市民・地域・社会をひとつにチャレンジプロジェクト2026を行います。

2006年、国連で採択された障害者権利条約にて「言語に手話が含まれる」ことが明記されたのをきっかけに、連盟は2010年から手話言語法制定推進運動を続け、2025年6月に「手話施策推進法」が公布、施行されました。生活のあらゆる場面で手話言語によるコミュニケーションや情報提供が保障されることは、誰もが安心して暮らすことができる「共生社会」のための一歩になります。

全国の自治体や民間企業・団体等の皆さま、ぜひこのプロジェクトに賛同いただき、「手話は言語である」ことの認知拡大活動にご協力ください。

【チャレンジプロジェクトの推進について】

連盟は、きこえる人ときこえない・きこえにくい人がともに暮らし、人権と平等が守られた共生社会を求め、全国各地の名所や施設を同時にライトアップすることで、大きなインパクトを社会に与え、「手話は言語である」という認知を広めていきたいと考えています。

連盟の加盟団体（全国47協会）のほかにも、関係団体である「手話を広める知事の会（全都道府県知事が入会）」、「全国手話言語市区長会（661市区長、18町村長が入会）」からも、昨年に続き積極的なご協力をいただいています。

今年も連盟のホームページにプロジェクト公式ページを設置し、賛同いただける自治体や民間等からのプロジェクト参加を順次公開していきます。

【ライトアップについて】

ライトアップの日時や基準等は以下の通りとします。

- 日 時：2026年9月23日（水・祝）日没から約15分後
※終了時刻はその施設等の規定による
- ライトの色：青色（原則として#007EC4、もしくはこの色に近いものとする）
- 点 灯 間 隔：原則として常時点灯とする

【賛同を示す周知方法について】

賛同いただき、ライトアップをされた場合、SNS等での周知にご協力ください。

- 別途案内いたします申請フォームにて、ライトアップを行う施設等の情報を2026年7月31日（金）までにお寄せください。いただいた情報はプロジェクト公式ページに掲載します。
- ライトアップの写真や動画は、2026年9月以降に案内を予定している「入力フォーム」にてぜひ国際委員会までご提供ください。なお、ご提供いただいた写真や動画は、プロジェクト公式ページや連盟の広報媒体、書籍等に掲載することがあります。
- SNSへアップいただく際には、ハッシュタグとタグ付けをお願いいたします。
ハッシュタグ：「#IDSL」「#BlueLight」「#手話言語に光を」



【問い合わせ先】

一般財団法人全日本ろうあ連盟 国際委員会

E-mail：jfd-km@jfd.or.jp

TEL：03-6302-1430／FAX03-6302-1449